移動市長室

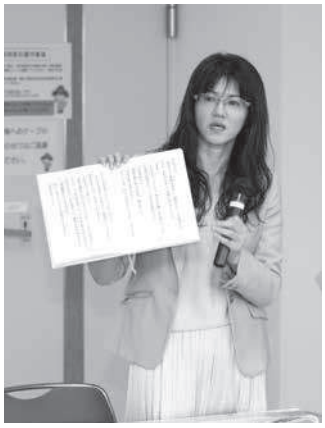
拡大写本うさぎ
～弱視の子どもたちに読書の喜びを～

通算96回目となる移動市長室を、12月13日㈮にカミーリヤで開催し、拡大写本うさぎの会員10人と懇談を行いました。

「うさぎ」年から20年

拡大写本うさぎの始まりは、平成10年に行われた拡大写本入門講座でした。受講者が中心となって翌年に設立し、その年がうさぎ年だったことから、会の名前を「うさぎ」としました。福祉ボランティアとして20年目となる現在は、20人の会員で拡大写本の作成や毎年6月頃の入門講座などの活動を行っています。

作成した拡大写本は、平成30年度までに429作品1030冊。作った本は、市内牛島にある福岡視覚特別支援学校、福岡高等視覚特別支援学校に納品しています。


活動報告をする代表の原田さん

読みやすさを追い求めて

拡大写本は、ただ文字を大きくすることだけではありません。読みやすい書体を使い、文字の行間や改行、配置などを細かく調整し、内容を理解しやすい構成に仕上げていきます。絵本などは手書きで写し、イラストも読みやすいように配慮しながら原本そのままに描き起こします。校正の後、のり付け、製本と丁寧な作業を行い、1冊の本から時には10冊以上になる拡大写本を完成させるのに数カ月。「できあがった写本と原本を見比べると達成感があります」と会員は話します。

特別支援学校に納品後も、子どもたちや先生から意見をもらい、読みやすくする改善を続けています。

初の試み　漫画を拡大写本に

弱視の女子高校生が主人公の漫画が話題となり、特別支援学校でも読んでみたいという強い要望が寄せられました。しかし漫画の拡大写本は前例がなく、会にとって初めての挑戦となりました。特に苦労したところは絵の表現方法。試行錯誤の末、脚本のように状況説明の文章を追加することに。絵から読み取れる情報を過不足なく、客観的に書き起こしているか何度も確認し合い、制作を進めました。

昨年11月に完成した本は特別支援学校に納品され、多くの子どもたちに読まれているそうです。

「拡大写本」とは

小説や絵本、教科書などを弱視の人たちが読みやすいよう、文字の大きさや絵の配置などを工夫して書き直したもの。拡大写本うさぎでは、手書きやパソコンを使って1冊ずつ手作りしています。

「拡大コピーではなぜダメなのか」

「本が読めるようになった」お礼の手紙が寄せられています

作成する工程を視察しました

「本が好きになった」を励みに

会には、特別支援学校の子どもたちや先生からのお礼の手紙が届きます。子どもたちの手書きの感想文を読み、「一冊一冊思いを込めて丁寧に作っているのが伝わっていると実感できます」と、しみじみと話していました。

今年で活動15年目になる代表の原田さんは、「子どもたちには一冊でも多く心に残る本に出合ってほしい。私たちが作る本がそのきっかけになれば」と熱い思いを語ってくれました。

参加者の感想

・今回、市長から直々に言葉をいただいて、これからも頑張ろうという意欲が湧いてきました。

・本当にみんなで一生懸命やっています。その一人ひとりの考えを市長さんに聞いていただいて、とても良かったと思います。

藤田市長の一言

会員の皆さん方のお話を聞いて、それぞれに一生懸命、そして真心を込めて活動しているというのが伝わってきました。

私も市長3期目の中でやりたいことがたくさんあります。10万4千余の市民の皆さんに対して真心を込められているかなと考えながら、それをどんどん進めていきたいと思いました。

第96回の移動市長室ですが、本当に皆さんの一言一言がいろんな角度で心に染みました。感動しました。この会で勉強させていただいた大きな宝物を持って今後の市政に臨みたいと思います。ありがとうございました。

問い合わせ先で電話番号を掲載していない課・担当などは、市役所本庁 ☎(923)1111 にお願いします。